

## 編集後記

今年度は、新型コロナの変異種がたびたび出現したが、世界はウィズ・コロナに舵を切り、日本も遅ればせながら季節性インフルエンザと同じ扱いになる5類への変更を決めた。この3年間、学生は私の顔をほぼ見ていない。私も学生の顔を見ていない。何かの弾みでマスクを外した学生の顔を見て、「こういう顔だったか、意外と可愛いじゃん」と思った（笑）。

一方、もう一つの懸念が未だ膠着状態にある。ロシアのウクライナ侵攻が始まった時、昨年度の編集後記を執筆中で核の引き金を引くのか？と妄想した。あの瞬間、すぐに終わる（占領される）と思ったが、意外にもロシア軍は脆く、ウクライナの覚悟は強かった。まだプーチンは、振り上げた拳を降ろせないでいる。

第3次世界大戦勃発となるかもしれない中、いわゆる西側諸国はウクライナへの武器供与を継続し、最強モデルの戦車投入も決まったところだ。果たしてゲームチェンジャ、いやストップパになれるのか？もっと戦闘機も必要なのか？

話をクルマに戻そう。このウクライナ侵攻は、皮肉にも脱炭素化を急ぐ世界に何をもたらしたか？今年度は暖冬でEU諸国はガス欠の危機を免れたが、「2035年EV義務化」は見直され緩くなる、と思われる。原発も増える。日本もそうだ。電力は足りないのだ。水素はどうか？たくさんあるが使い難い、まさに矛盾。

EVの雄、テスラが航続距離を4倍に伸ばしたとヘッドラインにあった。中身は単気筒400ccの発電用ガソリン・エンジンを搭載したレンジ・エクステンダ（シリーズ・ハイブリッドの仲間）であった。やっぱりそうか！納得した。

いずれにしても電動化は必須で、少なくともハイブリッド化が進むことは間違いない。だから、電動化技術を学んでおかなければならないのだ。前へ進め！

そんな中で、教育に携わる先生方には、本年度も論叢に寄稿していただきました。例年に加えて一級自動車整備専攻および留学生センターから新たな寄稿があり、本学の専門性や留学生指導の一部を垣間見ることができます。ここに全6編を掲載できたこと、心より感謝いたします。ありがとうございました。

（文責：森本一彦）

## 論叢委員

森本一彦・清水啓司・森 光弘・加藤泰世

中川 実・寺尾裕二・中里武彦・三糸雅昌

---

2023年3月8日発行

編集 中日本自動車短期大学論叢委員会

発行 中日本自動車短期大学

岐阜県加茂郡坂祝町深萱1301 〒505-0077  
電話 (0574)26-7121 代表

印刷 西濃印刷株式会社  
岐阜市七軒町15 〒500-8074  
電話 (058)263-4101 代表

